

令和7年度 第2回清瀬市男女平等推進委員会 議事録

日 時：令和7年 11 月 28 日（金） 午前 10 時～正午

会 場：男女共同参画センター 会議室 1・2

出席者：橋本委員長 佐藤副委員長 前川委員 豊田委員 田村委員 芦澤委員
鈴木委員 福田委員 高橋委員 渡辺委員

欠席者： なし

事務局：地域振興部男女共同参画センター

議題

1 男女平等推進プラン進捗状況調査評価について

(1) 各班作成の発表

委員会は、現行プランの評価プロセスにおける課題を認識した上で、来年度に予定されている「中間見直し」および「第4次清瀬市男女平等推進プラン」の策定に向けて、評価方法や計画のあり方そのものの抜本的な見直しが必要であるとの方向性を共有した。

特に、より実践的で効果的なプランの策定と評価体制の構築が喫緊の課題として認識され、次回委員会では中間見直しと総評について集中的に議論される予定である。本委員会の議論を通じて、以下の点が主要な懸案事項として挙げられた。

ア 事業評価の質と方法論の改善

担当課の自己評価（多くが B 評価）と委員会の評価（より厳しい C 評価や改善要求）との間に乖離が見られ、ジェンダー視点や男女別データが十分に反映されていない点が指摘された。

イ 評価項目が多すぎる

評価結果が PDCA サイクルに適切に反映されていない、単年度評価の限界といった評価体制そのものの課題が浮上した。

(2) 各評価に対する議論

ア 女性職員の活躍推進とハラスメント対策の強化

◎市職員の女性管理職意見交換会の継続性の欠如やテレワーク環境の整備が不足しているのではないか。

◎ハラスメント対策研修の実施不足が問題視され、研修の必修化や継続的な実施、さらには市民からのカスタマーハラスメントに対する職員の対応力強化が必要ではないか。

イ 市民への情報発信と相談体制の認知度向上

◎男女共同参画に関する情報（相談窓口、デートDV、性教育、各種イベントなど）が、若

年層、外国人、高齢者を含む市民全体に十分に周知されていない点が共通の課題ではないか。

◎男女共同参画センター（アイレック）自体の認知度向上が強く求められる。

◎「だれでもトイレ」の整備は進むものの、性的マイノリティへのプライバシー配慮が不十分ではないか。 障害者支援において、性差に配慮した視点が欠けているのではないか。

ウ 審議会等における女性参画の促進の停滞

◎審議会等における女性委員の登用が進んでおらず、充て職の委員が男性中心である現状が背景にあるのではないか。改選期における女性比率向上の努力、そして男性委員からのジェンダー視点の発言を促す働きかけの必要性がある。

2 中間見直しについて

「第4次清瀬市男女平等推進プラン」は、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」など、最新の法改正や社会動向を反映すべきとの意見が出た。10年単位の長期計画では時代変化への対応が難しいとの認識から、より短いスパンでの見直しや、具体的な事業と計画の連携強化、第三者評価の導入の検討が提言された。

次回の日程

12月26日（金）を予定する。

以上